

# 「ぎふ農業・農村基本計画」 令和3年度目標達成状況

## ◆基本計画の目標指標数 61指標

- ・基本計画は、令和7年度の目標を設定していますが、進捗管理のために、年度ごとの目標を設定しています。
- ・今回、令和3年度(1年目)の目標に対する実績評価を行いました。

○全61指標の実績を評価(実績調査中の指標を含む)

○主要5指標で単年度目標を達成できたものは、4指標  
(「地産地消率」は調査手法を変更)

○主要指標以外で単年度目標を達成できたものは、22指標

○達成できなかった項目の主な要因

- ・新型コロナ感染拡大に伴うイベント中止、移動制限、需要減少等

多面的機能啓発活動実施回数、柿の輸出量、農林漁業体験者数  
世界農業遺産「清流長良川の鮎」認知度、養殖生産量 等

- ・高温・多雨などの気象の影響による収量減少・品質低下

えだまめ・だいこん・柿・茶の共販出荷量、桃・りんご出荷量  
加工業務用野菜の生産量、地元栗菓子業者への供給量

# 主要指標（5指標）の実績

## (1) 担い手育成数

目標を達成した

R1年度(基準年)	R3年度		R7年度(最終年)
実績値	目標値	実績値	目標値
473人・経営体	440人・経営体	596人・経営体	累計2,200人・経営体

### 【評価・分析】

○「ぎふアグリチャレンジ支援センター」による相談、研修、就農、定着まで一貫した就農支援を実施したことや、ぎふアグリチャレンジフェアの開催などで、安定収入を見込む雇用就農希望者と農業法人等とのマッチングを支援し、雇用就農者が大きく増加したため、目標を上回った。

### 【今後の方針】

○ぎふアグリチャレンジフェアなどの開催による就農等の相談対応により、新規就農者や雇用就農者を確保するとともに、新規就農者の早期経営安定に向けて、中小企業診断士等の専門家派遣による経営改善指導など、技術・経営両面からの伴走支援を強化する。

## (2) ぎふ清流GAP実践率

目標を達成した

R1年度(基準年)	R3年度		R7年度(最終年)
実績値	目標値	実績値	目標値
—	5%	9.5%	35%

### 【評価・分析】

○GAP指導員を育成(169名)し、農業者にGAP導入手法や経営改善指導などの丁寧なサポートを実施するとともに、新聞などを活用したPR、設備導入の支援などに取組み、普及指導対象の368経営体のうち、35農場を認証し、目標を達成した。

### 【今後の方針】

○農場管理の点検などの農家の労力負担の軽減を図るため、タブレット端末を活用した農場評価方法を検討する。  
○GAPに取り組む生産者を応援するため、流通業者等のパートナー企業との連携による販売促進や消費者認知度の向上を図る。

# 主要指標（5指標）の実績

## (3) 飛騨牛の輸出量

目標を達成した

R1年度(基準年)	R3年度		R7年度(最終年)
実績値	目標値	実績値	目標値
51.7t	60t	89.5t	100t

### 【評価・分析】

○協力覚書を締結している海外の食肉卸やレストラン等との連携による飛騨牛PRを行ったほか、飛騨牛輸出を行う国内の事業者に対し食肉加工費を補助した結果、輸出量は過去最高を更新し、目標を達成した。

### 【今後の方針】

- 引き続き、海外レストランでのメニューフェア開催など、情報発信を行うとともに、関係団体と連携し、飛騨牛海外推奨店の拡大を図る。
- 近年増加傾向にあるイスラム諸国への輸出を更に拡大するため、ハラール認証飛騨牛のプロモーションなどによる販路拡大に取り組む。

## (4) 地域防災力の向上に取り組むため池数

目標を達成した

R1年度(基準年)	R3年度		R7年度(最終年)
実績値	目標値	実績値	目標値
—	26箇所	29箇所	累計270箇所

### 【評価・分析】

○災害の予測から発生までのため池管理者、市町村、県の対応や住民への情報伝達を明確化した「ため池防災行動計画(タイムライン)」を28箇所で作成し、行政や地域住民が参加するDIG(災害図上訓練)を1回開催したことにより、目標を達成した。(ため池についてのDIGの実施は東海地方初)

### 【今後の方針】

- 防災行動計画やDIGの優良事例を他地域に横展開し、地域住民の防災意識の向上を図る。

# 主要指標（5指標）の実績

## (5)地産地消率

### 調査手法及び目標の見直し

R1年度(基準年)	R3年度		R7年度(最終年)
実績値	目標値	実績値	目標値
20%	21%	調査中	25%

#### 【見直しの概要】

○地産地消率の算出対象品目を、販売店舗で取扱金額が把握でき得る全ての農産物品目から、県内で生産される主要品目(野菜10品目、果実2品目)に見直し。

#### 【見直しに至る背景】

○令和3年8月に新たに設置した「清流の国ぎふ」地産地消推進会議との今後の施策推進に係る検討協議の中で、地産地消率見直しへの提言があった。

<提言内容>

- ・現行の地産地消率は、県内でほとんど生産されていない品目も含めて算出されており、消費実態とかけ離れた低い数値となっている。
- ・コロナ禍で地産地消への関心が高まる中、消費者の行動変容が結果として地産地消率に直結する形に見直すべき。

「清流の国ぎふ」地産地消推進会議

設立:令和3年8月

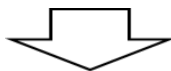
座長:前澤重禮(岐阜大学特任教授、前岐阜県農政審議会計画策定部会長)

構成:7名(生産者、流通業者、販売事業者、消費者及び学識経験者)

所掌:地産地消活動の推進方策に関する協議等

#### 【目標設定の考え方】

○県内量販店やJA直売所等と連携し、消費者を巻き込んだ地産地消県民運動を全県展開することで、着実に毎年度1ポイントの上昇を目指す。



#### 目標指標(見直し後)

地産地消率(地産地消県民運動実施店舗における農産物販売額のうち県産農産物の占める割合)

**R3年度(基準年) 48% → R7年度(最終年) 52%**

$$\left( \text{地産地消率}(\%) = \frac{\text{対象品目の県産販売額}}{\text{対象品目の総販売額}} \times 100 \right)$$

## 主要指標以外の指標で達成できなかった主な要因等

### ■新型コロナ感染拡大に伴うPRイベント等の中止等

#### ○多面的機能啓発活動実施回数 R3年度実績 56回（R3年度目標 70回）

（達成できなかった要因等）

新型コロナウイルス感染症拡大により、多くの地区で「ぎふ水土里の展示会」等が開催できなかったことによる。

引き続き、感染症拡大の状況を踏まえつつ、「ぎふ水土里の展示会」等の多面的機能の啓発活動に取り組む。

#### ○農林漁業体験者数 R3年度実績 159千人（R3年度目標 260千人）

（達成できなかった要因等）

前年度(R2)の100千人から、159千人まで増加したものの、コロナ禍前までの回復には至らなかったことによる。

今後は、R3年度作成のPR動画の活用、グリーンツーリズム専用のサイトの充実を図るなど、農林漁業体験の情報発信に取り組む。

### ■高温や多雨などの気象の影響による収量減少・品質低下

#### ○大豆の生産量 R3年度実績 3,020 t（R3年度目標 3,480 t）

（達成できなかった要因等）

国交付金の活用により、前年より100ha生産面積が増加したものの、8月の長雨による湿害の影響から単収減少したことによる。

今後は、生産性向上事業による現地実証等により、単収向上に向けた取組みを推進。

#### ○加工業務用野菜(キャベツ)の生産量 R3年度実績 2,305 t（R3年度目標 2,600 t）

（達成できなかった要因等）

栽培面積は増加しているものの、定植後の高温により生育不良となり、単収が平年比15%減の3t/10aと低くなったことによる。

今後は、定植時の初期の活着を向上させる肥培管理などの技術支援を実施。

#### ○柿共販出荷量 R3年度実績 2,326 t（R3年度目標 3,386 t）

（達成できなかった要因等）

出荷量の7割を占める主力品種の富有柿が、8月以降の低温、長雨による軟化の多発等により、単収が平年よりも11%減の1,040kg/10aになったこと等による。

今後は、軟化対策として、園地の排水対策の徹底等を図る。